

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年2月15日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」桃花台校 第一単位

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		職員で話し合い、活動に応じて部屋が固定化しないように考えている。	環境設定に配慮が必要なお子さんを優先的に考えていく。混みあう時間を避け、支援時間をずらすことも考慮する。
	②	職員の配置数は適切である	5	1	担当職員が固定化しすぎないように、様々な職員でお子さんを支援していく。	職員の人数が増え、休みが取りやすくなった。支援を任せの際に、引継ぎを丁寧に行う。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	部屋に入室するまで駐車場から手助けが必要なご家庭には職員が迎えに行き、誘導している。	部屋をシンプルな設定にし、目につく玩具などは布をかけたりし、落ち着く空間で支援していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		次の支援の時間までに準備物を片付け、消毒、換気を行い、清潔な空間で支援を行っている。	物が多い設定の場合は、支援の前後、他の職員に片づけを依頼し、業務の分担を行っている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		日常的に担当児の支援内容や目標、振り返りを行っている。	業務全般にも取り入れていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者の意見を受け止め、事業所を客観的に見つめなおす機会を設けている。	業務改善すべきところを話し合いながら、行動に結びつけるようにしたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		年一回公開している。	改善できるところはすぐに取り組んでいく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		職員に事業所内外の研修を受ける機会を設けている。	支援時間を考えながら、その日に受けられるように事前に支援の準備を済ませておく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		アセスメントを定期的に行い、支援計画に反映させている。	定期的に指導員と支援内容を振り返る機会を持ち、日々の支援に活かせるようにする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		標準的なアセスメントツールを使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な	6		必要に応じて選択し、具体的な支援内容に設定し、取り組んでいる。	

	項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		定期的に支援の様子を見学し、指導員と児発管が話し合っている。	支援の内容が適正かどうかを定期的に見直していく。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		個別支援の時は、指導員と児発管が立案を行っている。小集団では、複数の担当が主に話し合い、児発管も内容を把握する。	偏った内容にならないように、発達段階に応じたプログラムや季節に応じた内容を考えていく。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		様々な情報からヒントを得て活動を工夫している。	指導員同志で見学したり、設定遊びのヒントを互いに学び、共有していけるとよい。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		人との関わりが課題のお子さんが多いため、発達段階に応じて集団活動も行っている。	集団活動の内容を各担当でねらいや目的についてよく話し合っていく。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		活動内容や準備物、支援の部屋など設定に応じて確認している。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		その日が難しければ、近日中に振り返る機会を設けている。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録をすぐを書くようにし、もれのないように互いに声をかけている。	誰が読んでも分かりやすい内容を心がける。
	⑳ 定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的に行っている。また、成長の様子や支援の内容を指導員からも確認している。	
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児発管が参加している。	参加した児発管が会議の内容を指導員に周知していく。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		必要に応じて連携している。	
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		該当者がいない。	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6		該当者がいない。	

	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	必要に応じて行っている。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	保護者のニーズがある場合や、必要に応じて行っている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	こども連絡会などに参加し、助言や研修を受けている。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6	今のところない。	
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1	案内があれば参加している。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		支援のフィードバックの時に保護者と話すことで課題を伺い一緒に考えている。	保護者によって時間を設けた方がいい場合は、事業所内相談支援を行う。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	1	特別に行うのではなく、日々のフィードバックの中で、家族支援を行っている。	時間を設け、事業所内相談支援を行うこともある。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に説明している。	必要に応じて説明を補足していく。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		保護者のニーズや児の課題を伺い、支援計画を作成、説明時に同意を得ている。	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者の方からご相談があった場合は行っているが、出来るだけ多くの保護者と話すようにする。	全員の保護者に向けて発信はしているが、なかなか全員とお話出来ていないため、機会を持ちたい。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	以前児発の保護者会を行い、好評だった。	また、呼びかけをし、実施に向けて動いていく。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		保護者の困りごとをタイミングを逃さないように対応している。	保護者からの発信だけでなく、気になる保護者には、こちらから声をかけていく。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2	会報は発行していないが、定期的に保護者に LINE で連絡事項をお伝えしている。	
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	6		名前の見えるものは出さない。掲示物にも気をつける。	新規ご見学の際にも利用者の個人情報が出ないように配慮する。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		具体物や分かりやすい声掛けて伝えるようにしている。	伝達が困難な保護者には、メモや祖父母などご連絡先とやりとりする。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	特に行っていない。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		各マニュアルを作成し、職員と保護者に周知しているが、知らない保護者もいる。	掲示の仕方を見直し、周知していく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		定期的に行っている。	現在、職員のみで行っているため、コロナ感染が落ち着けば、子供と一緒に訓練を行っていく。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		契約の時や、必要に応じて確認している。	体調に変化があった場合はすぐに連絡を取れるように
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		食事の提供がない。	クッキングなどを行う場合は、原材料名を提示し、保護者に了解をいただき、取り組んでいく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		事例があった場合、職員間で共有し、再発防止に努めている。	再発防止と、未然に防ぐための工夫を話し合っていく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		研修の機会を持ち、資料を基に、ケース検討を行っている。	支援の時にも、常に注意を払い、適切な関わりが出来ているかを把握する。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約時に話をし、やむを得ず行った場合は保護者に説明し了解を得る。	支援の時にも、常に注意を払い、適切な関わりが出来ているかを把握する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年2月15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」桃花台校 第二単位

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		利用者によって部屋を相談している。	今は、皆で話し合っていて決めているため、問題はない。
	②	職員の配置数は適切である	3			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		3	支援室が2Fにあるため、子供の手を繋いだり、抱っこするなどし、部屋まで誘導している。小集団の活動は、保護者が部屋まで迎えに来ていただくことで保護者にも階段での危険を防ぎ、事故防止に努めている。	指導員だけで対応できない場合は、児発管が誘導したり、保護者へフィードバックするのを支援室に迎えに来ていただいた際行うように対応している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3		シンプルで気が散らないような部屋にしている。	小集団活動では、設定に合わせて部屋を移動し、混雑を回避している。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	2		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	2		日本人スタッフのための研修が主。ブラジル人スタッフのための研修をもっと増やしてほしい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	2	1		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	1		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	2	1		

関係機関や保護者との連携	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3			小集団活動の前に、話し合いの場を設けている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	1		工夫しているが、もっと子供のための玩具がほしい。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	2		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3			
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3			
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		3		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		3		該当者なし。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		3		該当者なし。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	1		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	2		
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		3		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		3		
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	2		児発管が参加している。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			

	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	2	1		
保護者への説明責任等	㉑	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			通訳がない状況だと説明にも限度があるが、ブラジル人のスタッフにも助けてもらっている。
	㉒	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	1	1		
	㉓	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		3		
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		
	㉕	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	2	1		
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		3		
	㉗	個人情報の取扱いに十分注意している	1	2		
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		3		
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		
	非常時等の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3		
㉛		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3			
㉜		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3			
㉝		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		3		食事の提供なし。
㉞		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3			
㉟		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			
㊱		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2023年2月15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」桃花台校 第一単位 保護者等数（児童数）：13 回収数：13 割合：100%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13					部屋の広さは恵まれており、運動などここでしか出来ない活動に取り組んでいる。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	11			2		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11	1		2		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12	1				
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	13					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	12			1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	13					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	10	2		1		活動プログラムが固定化しないように工夫していく。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	4	1	7		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	13					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	6	5	1	1		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12	1			療育中の様子を丁寧に教えていただるので、子供が頑	限られたフィードバックの時間だけでなく、支援の様子やご家庭での過ごし方

							張っていることを知ることが出来て嬉しい。園への情報提供もでき、子供が更に過ごしやすく環境を整えることができ、有難い。	や問題点などについても共有していく。必要に応じて時間を取り、保護者と話す機会を設ける。
	⑭	定期的な、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11	2				
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	5	1	6		保護者の会がなかなか開催出来ていないため、今後検討していく。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11	2				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12			1		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9			4		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	10			3		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6	3		4		緊急時、防犯、感染症マニュアルの掲示をし、周知していきたい。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	2		7		避難訓練の様子を掲示や文書で周知していく。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	13				・とても楽しみにしている。 ・すごく楽しみで先生も大好き、活動も楽しい様子。	楽しく通所されている利用者がほとんどで、今後一層成長のお手伝いができるように職員一同精進していきたい。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	13				・子供が安心して楽しく通える場所になっている。 ・本当に大満足。かなり成長が見られる。 ・きらりのおかげで様々なことができるようになった。	数ある事業所の中で通所されることを選んでくださり、利用者の満足度も高いことが嬉しい。これを励みに、日々利用者のためにより良い支援を目指していく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2023年 2月 15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」桃花台校 第二単位

保護者等数（児童数）：7 回収数：3 割合：42%

		チェック項目	はい	どちらとも いえ ない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	2	1				
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	1		1	1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	3					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	3					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	3					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	3					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	3					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2		1			
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	3					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2			1		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	3					

	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1	2				
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1		1		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	1	2				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3					
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	3					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3					
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	1				
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	3					
	㉓	事業所の支援に満足しているか	3				私の子供はきりが大好き。	今後も利用者にご満足いただけるように職員一同取り組んでいく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。